

国分寺中学校区

【目指す子ども像】

- 学び合い高め合う子ども
- 主体的に人や社会に関わる子ども

【実践研究課題】

学び合いを支えるコミュニケーション能力の育成

各部会の取組

<学習指導部会学力向上チーム>

【児童生徒の実態】

昨年度のとちぎっ子学習状況調査や学校評価において、家庭学習への取組に関する質問の肯定的回答率が、他の項目と比べて低かった。調査で特に低かった項目は、「自分で計画を立てて勉強している」「家で勉強するときにだいたい同じ時刻に取り組むようにしている」などである。また、とちぎっ子学習状況調査で、「自分は勉強がよくできる方だと思う」「自分にはよいところがあると思う」などの項目で肯定的回答の割合が特に低く、自己肯定感が下がっていると考えられる。

【部会のねらい】

「家庭学習協調週間」を通して、家庭学習の方法や生活習慣の見直しを保護者に啓発して家庭学習の充実を図り、自分で設定した課題に自分の力で取り組むことにより、自己肯定感や主体的に学習する態度を高めていく。そして、自ら学習を調整する力を高めていき、学力の向上につなげていく。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・国分寺中学校の定期テスト期間に合わせて「家庭学習協調週間」を設定する。 ・家庭学習協調週間は小中同時に行うことで、家庭全体で取り組む機会とする。 ・「家庭学習協調週間」の期間中、振り返りカードを活用し、家庭の協力を得るとともに、実施状況をデータ分析し、改善を図る。 ・発達段階に応じた学習内容を一覧にまとめ、保護者への情報提供をするとともに、教職員間で情報を共有する。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習協調週間」において、家庭の協力を得られ、自主学習やノーゲームに取り組むことができた。 ・数値としては大きな変化は見られなかったが、第2回は、平日のみの実施であったことや、運動会や遠足といった行事前の取組であったことを考慮すると、家庭学習協調週間を意識して取り組んでいた。 ・学習時間、ノーテレビ・ノーゲームの取組について、自分の実態を意識し、改善の意欲が見られた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭によって協力の差が大きい。 ・家庭学習協調週間以外にも、家庭学習を主体的に取り組めるようにする手立てを考える必要がある。 ・課題設定の仕方や学習計画を立てることについて、個人差が大きい。学校で指導していく必要がある。 ・読書習慣を身に付けられるように、家読を実施し、読書活動が活性化する手立てを考える必要がある。

<学習指導部会授業研究チーム>

【児童生徒の実態】

明朗で礼儀正しく落ち着いた態度で学校生活を送っている。特に、学習に対する意欲が高く、学習課題について友達と協力し、考えを深める姿勢が身に付いている児童生徒が多い。

【部会のねらい】

義務教育9年間の学びをつなぐ、揃えることで 安心感を持って学習に取り組み、教育的効果を上げる。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・授業スタイルの統一 ・対話的な学びを会話無しとするためのツール活用と収集
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「ねらい→振り返り」の流れを3校で共有することで、教職員の意識が高まった。 ・学習や生活に役立つツールの紹介を通して、使い方や活用できる場面が分かり、改善しようとする意欲が高まった。 ・各校の代表者のみが集まって取組の方向性を示す形で実施し、効果が上がった。全員が集まり、共通理解を図る形以外にも、活動を進めることができることを確認できた。

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ教科で、国分寺中、国分寺小、国分寺東小の授業スタイルを比較し、小中のつながりを意識して共有できるようにしていく。 ・板書例は全教科全学年を網羅し、簡便に閲覧できるようなシステムを構築していく。
----	--

<学習指導部会特別支援チーム>

【児童生徒の実態】

障害の特性や個々の差が大きいが、コミュニケーションについての課題のある児童・生徒が多い。

【部会のねらい】

個に応じた基本的なコミュニケーション能力の育成を目指した自立活動の実践を通して、小中間の連続性のある教育活動の確保を図る。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた基本的なコミュニケーション能力の育成を目指した自立活動の実践報告を通して、プログラムを共有するとともに、小中間での連続した指導につなげる。また、市小中合同行事で小中学生混合のグループを組み、小中学生の交流活動やよりよいコミュニケーションの実践をする。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・小中の特別支援学級担任間での児童・生徒についての情報交換ができた。 ・保護者・本人・学校が共に納得できる就学支援となるよう、小学校と中学校が連携して個人面談や学校見学を行う機会を設定・実施できた。 ・数は少ないが、自立活動の実践報告ができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・市小中合同行事がすべて中止となったため、小中学生が交流できる機会がもてなかった。 ・就学支援に関する小中でのやり取りを、必要が生じるたびに何度も行ったが、より計画的に行うために、年間活動計画に位置付けるとよかった。 ・各校での活動実践や効果的な教材・教具の使い方についての情報共有ができるとよかった。

<児童生徒指導部会>

【児童生徒の実態】

基本的な生活習慣は身に付いている児童・生徒が多い
全体的に考え方や行動が、やや幼い傾向がある

【部会のねらい】

時と場に応じたあいさつや返事の仕方、お互いの話の聞き方、伝え方などを指導し、児童・生徒のコミュニケーション能力の育成を目指す

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生による小学校へのあいさつ運動交流を通し、児童・生徒のコミュニケーション能力の基礎を作るとともに、互いの学校への理解を深める機会とする。→ 今年度は中止 ・子ども未来プロジェクトによる清掃活動交流を活用し、清掃活動を通じた異学年のコミュニケーションの場を設ける。 → 小学生の質問に中学生が答えるというオンライン交流に変更
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒同士が直接会って交流することができず、オンラインによる交流となったが、小学生の質問に中学生が答えることによって、中学校に対する不安を和らげることができた。また画面を通してのやりとりであっても、あいさつや話し方、礼儀など、児童生徒のコミュニケーション能力の育成にも役立てることができた。今回のオンライン交流は今後様々な活動の可能性を広げられるものであると考えられる。今後の小中交流の1つのスタイルとして定着させていきたい。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・国中と国小、国中と国東小という1校対1校の制限の中での交流であったが、次年度は3校でのオンライン交流を実現したい。また、内容についても「いじめについて」や「ネットについて」など、お互いに意見を交換し、子どもたちから「こうあるべき」というメッセージを発信していけたらと思う。そのために機材の充実が必要不可欠である。今回のオンライン交流では途中で回線が切れる、映像が止まる、などの不具合もあり、音声も聞き取りにくかった。オンライン交流用のヘッドセットやウェブカメラ、アプリケーションの機能制限解除などがあると、より充実した交流ができると考える。さらに児童生徒指導部会のメンバーに情報機器に詳しい人材が加わることで、できること、できないことが明確になると思われる。

<健康安全部会>

【児童生徒の実態】

休校や自粛生活に伴い生活習慣が乱れている児童生徒が多く見られる。また、各学校実施のメディア使用に関するアンケート調査からも使用に伴う疲労感・睡眠不足・視力低下等の健康被害や対人トラブル・不安症依存症等への対応の必要性も考えられる。

【部会のねらい】

- ・心身共に健康で、自分を大切に子どもを育む指導の在り方。
- ・テレビ・オンラインゲーム・動画視聴のメディア使用による健康被害・精神被害(依存症を含む)の把握と、健康教育の実施。
- ・学習指導部と連携した、家庭学習強化週間の立腰指導の実践。

視点	<A> 教育課程の工夫改善	 教育活動の連続性の確保	<C> 教職員間の連続・協働	<D> 家庭・地域との連携・協力
----	------------------	--------------------	-------------------	---------------------

取組	・健康の土台となる「早寝 早起き 朝ごはん」の取組を継続しながら、本年度の課題である「メディア使用による健康被害」における各学校の実態を把握し、健康課題を明確にする。健康課題解決の具体策を学校保健計画に位置付け、学校保健計画の保健教育を計画どおりに実施することで、児童・生徒の生活環境改善への意識とスキルの向上を図る。			
成果	・生活習慣チェックは家庭学習協調週間とタイアップして実施し、生活習慣・健康・学習の密接な関連を促したところ、保護者及び児童生徒からその実感を得るコメントが多かった。自らの生活習慣の振り返りを継続して実施することで、よりよい生活習慣を身に付ける意識付けとなった。特に、今年度の朝食摂取率は昨年度の84.5%より大きく向上し88.1%に上がったことは、食育の積み重ねによる成果と捉えている。 ・点検項目に本年度の実践研究課題でもあるメディアの時間や食事時の姿勢について追加したり、給食時に正しい姿勢を促したりして、更なる意識の向上と正しい姿勢の習慣化の実践を図った。			
課題	・朝食アンケート結果では、朝食欠食理由を「用意がない」と回答した児童生徒が約15%いることから、保護者の意識向上のためのアプローチをさらに工夫するとともに、小学校高学年や中学生においては、自分で朝食を用意する力や方法が身に付くための指導から、主体的に人や社会に関わる子どもを育てていく必要があると考える。 ・生活習慣については、短期間で結果が見えるものでもないため、家庭への啓発活動をより充実させるために、学習指導部および生徒指導部との連携を明確にし、次年度も引き続き実践研究を行う。			

<地域連携部会>

【児童生徒の実態】

小学校は地域のボランティアの方々に関わる場面が多いが、中学校は関わる場面が小学校と比較して少ない傾向にある。そのため、小学校でできた地域の方々とのつながりを中学校へつなげることが難しい現状がある。

【部会のねらい】

地域学校協働活動を中学校区に広げ、小中一貫教育と関連させながら目指す児童・生徒像の実現に迫る。

視点	<A> 教育課程の工夫改善	 教育活動の連続性の確保	<C> 教職員間の連続・協働	<D> 家庭・地域との連携・協力
----	------------------	--------------------	-------------------	---------------------

取組	・小学校、中学校、地域で連携を図りながら、「頑張る学校・地域！応援プロジェクト」の活動に取り組む。小学校、中学校、PTA、学校運営協議会の代表者等で構成された連携会議を定期的に行い、内容を協議しながら活動を実践する。			
成果	・本の読み聞かせの活動では、小学生、中学生、地域のボランティアの方々と一緒に、活動や交流を行うことができた。この活動を通して、学校と地域がつながりをもつこともできた。また、定期的に連携会議を実施したことで、小中学校が連携を図りながら、活動を行うことができた。			
課題	・里山活動では、小学生と中学生と一緒に活動を行うことができなかった。来年度は、日程等の調整を行い、小学生と中学生と一緒に活動できるとよい。また、本の読み聞かせを行う時期を秋頃に設定し、中学3年生にも活動に参加させたい。			

成果と課題

◎成果

- ・昨年度の取組から「家庭との連携」という新たな課題が浮き彫りとなっていたため、今年度は新たに「特別支援チーム」「地域連携部会」を立ち上げ、「つながり」を意識して実践した。具体的には、家庭との連携を図った「家庭学習協調週間、自主学习」、小中の授業のつながり考えた「学習のルール、板書カード、意思表示カード」、特別支援教育における小中を貫く指導の在り方検討、児童と生徒をつなぐ「オンライン交流」、健康と学習、生活習慣との関連を検討した「生活習慣チェック」、地域とのつながりを図った「読み聞かせ、里山活動、小中作品交流」などである。どの取組をとっても、無理なく長く続けられるものであり、続けていくことで、小中学校だけでなく、地域の方々とのつながりも強くなる活動となった。
- ・今年度で本格的に小中一貫教育をはじめて4年目となった。初年度に比べて、小学校中学校ともに理解が深まり、活動もしやすくなってきた。また、理解が深まると同時に取組も工夫しやすくなってきている。

●課題

- ・今年度は実施できなかったが、小中の教員による乗り入れ授業や、中学校の体験授業などによる中学校へ進学する際のギャップをなくしていく取組を進めたい。
- ・ネットゲームやSNS等、急激なデジタル化に伴い、便利になった反面、児童生徒の健康被害、学習や生活への影響、人間関係の構築等への悪影響が出ている面も見られる。中学校区で共通した取組も必要となっている。
- ・オンライン会議システム等での交流が盛んになることで、学校内での機器の整備や教職員の操作技術の向上が必要となった。校内での人材育成や教職員への研修の機会の充実も必要である。

学びあい
家庭学習協調週間を実施します！

学校が有限なため1ヶ月がたちました。子ども達は、友達との機会を喜び、友達と活動できることによる楽しさを実感している様子が伺えます。学校としても、子ども達が安心して、授業ができることのある環境を整えたいと考えています。新しい生活様式の中、子ども達が笑顔で過ごせるように実践していきたいと考えています。

さて、今年度は国分寺中学校区の小中一貫教育の一つとして、「家庭学習協調週間」を実施することにいたしました。国中区全体で学習に取り組む機会とし、今後の学習に生かしていきたいと考えています。保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

1 実施日
国分寺中学校区定期テストの実施週（テスト期間前活動終了日）
(1) 8月29日(土)～9月1日(火)
(2) 11月9日(月)～11月12日(木)
(3) 1月29日(月)～1月31日(水)

2 目指す子どもの姿
小学校下学年 自分で課題を定めて、自主学习に取り組むことができる。
上学年 自分にとって必要な課題を設定し、自主学习に取り組むことができる。
中学校 自分にとって必要な課題を設定し、継続して自主学习に取り組むことができる。



板書例(小学校道徳)と板書ツール

国分寺中生が読み聞かせ

下野の小学校
選んだ絵本、ゆっくりと



中学校区共通で配布(学力向上より)

オンライン会議システムによる小



読み聞かせ(小学校)

生活習慣チェックカード

生活習慣	頻度	達成度
毎朝の歯磨き	毎日	達成
毎朝の洗顔	毎日	達成
毎朝の髪の手入れ	毎日	達成
毎朝の着替え	毎日	達成
毎朝の目覚まし	毎日	達成
毎朝の起床	毎日	達成
毎朝の挨拶	毎日	達成
毎朝の出勤	毎日	達成
毎朝の授業	毎日	達成
毎朝の帰校	毎日	達成
毎朝の帰宅	毎日	達成
毎朝の夕食	毎日	達成
毎朝の風呂	毎日	達成
毎朝の寝る	毎日	達成
毎朝の起床	毎日	達成

【項目⑤】いつもよりテレビ・ゲーム時間を()分短くすることができた(小学校版) 児童がより具体的にメディア使用を意識できるよう、国小では動画(YouTube)も項目に追加している。

生活習慣チェックにメディア使用の項目を設定

ほけんだより メディア号

ほけんだより メディア号

生活習慣見直しweek チェックカード(中学生)

生活習慣	頻度	達成度
毎朝の歯磨き	毎日	達成
毎朝の洗顔	毎日	達成
毎朝の髪の手入れ	毎日	達成
毎朝の着替え	毎日	達成
毎朝の目覚まし	毎日	達成
毎朝の起床	毎日	達成
毎朝の挨拶	毎日	達成
毎朝の出勤	毎日	達成
毎朝の授業	毎日	達成
毎朝の帰校	毎日	達成
毎朝の帰宅	毎日	達成
毎朝の夕食	毎日	達成
毎朝の風呂	毎日	達成
毎朝の寝る	毎日	達成
毎朝の起床	毎日	達成

中学生Ver.